Ⅲ.「キャンパス・アジア提言書」
― モニタリング学生部会による提言書 ―

日本側の１次モニタリングでは、外部質保証活動への学生参画という観点から、モニタリング委員会とは別に学生部会を設け、「キャンパス・アジア」プログラムの参加経験を持つ学生によるワークショップを平成２５年１２月に開催しました。

「キャンパス・アジア」の更なる深化に向けて学生が主体的に議論し、「キャンパス・アジア提言書」がまとめられました。この提言書については、学生部会の代表学生から、平成２６年１月のモニタリング委員会で報告されました。

なお、報告を受けたモニタリング委員会は、提言書に示された意見を２次モニタリングの検討に活用していくこととしました。

本章では、学生部会がまとめた「キャンパス・アジア提言書」および学生部会ワークショップの当日のプログラム等を掲載しています。

キャンパス・アジア提言書

平成２６年１月
キャンパス・アジアモニタリング学生部会

平成 25 年 12 月 11 日に行われたキャンパス・アジア参加学生による意見公開を基とし、更なるプログラム向上のため本提言を致します。本提言の構成は、学習面・生活面・その他の項目に分けたキャンパス・アジアの良い点・改善点の現状報告と、それを踏まえた提言から成っています。

現状報告

学習面：良い点

- 自分の専門外のことも学べて視野が広がった。
- 就職活動では苦労しつつも自発的に動いた経験、海外で過ごして適応していった体験が有利に働いた。
- 海外の方と歴史について議論する中で価値観のあまりの違いに驚いた。
- やる気のある貪欲な他国の学生に触れてさらにやる気が出た。
- 受入れ側の研究拠点の先生をはじめみなさんが親切で、溶け込みやすい雰囲気である。
- 多様性の中で議論をした良い経験であった。
- 自身のペースで研究活動の時間を管理したり、受講する授業を決定できるのは良い仕組みであると思った。
- 本やニュースで知っていたが、実際の現場に訪問し、自分の目でみて、話を聞く体験ができたのは良かった。現場体験は留学でしか叶えられないことだと思う。
- 日中韓の学生が同じ教室で学んだり、文化交換ができる共通授業やプログラムが存在する大学が一部ある。
- 他の留学制度に比べて留年せずに、また単位交換も認めてもらえるのでよかった。

学習面：改善点

- 事前研修がない大学があったので実施してほしい。
- 選択科目が少なすぎたので拡充もしくは他の授業への参加を認めてほしい。
- 用意された授業以外にも単位交換できる柔軟なシステムがほしい。
- 留学先の授業でわからないときにサポートしてくれる同学年の学生と一貫した指導教員（アカデミックアドバイザー）がほしい。
- インターンシップの制度も留学生のために整備してほしい。また、韓国では卒業前から内定した企業でインターンシップに参加するのでキャンパス・アジアに参加する際の期間を見直した方がよいと思う。
- 単位互換制度が整っていない場合があるので、スムーズに互換できる仕組みが欲しい。具体的には、派遣元の大学に戻った後、同じ科目を履修しなければならず二度手間となってしまう。また、そのために成績の互換が不公平になる場合が生じる。

- 学期の始まりの時期が異なる。
- 1つの学部・専門だけが設置されており、自国の大学と専門性が違う場合がある。
- 研究室についての情報が無いあるいは不足している。
- 留学先大学の研究室に個人で問い合わせても返信が来ない場合があった。
- 研究室に属さない場合には日々の学習や研究の拠点が無く、図書館などに行かされ、学生との交流の機会が少なくなってしまう。
- 指導教員間のネットワークができているとよい。
- ダブルディグリーに関して、二大学間で論文を書くとなると指導や発表などで国を行き来しなければならなくなる。またアカデミックイヤーが違い不便。
- 留学前の事前語学研修があると留学してから役立つ。(語学の授業が整備されている例もあり)
- 母国語の授業に参加できなかった。

生活面：良い点

- 各国の文化や習慣、考え方の違いに触れて母国を客観的に見直すことができた。
- 各留学プログラムによって留学の目的が異なっていたので様々な経験をした人がいてよかった。
- 留学から帰ってから旅行やシェアハウスや外国の方と交流できてモチベーション維持につながった。
- 勉強以外にもスポーツや料理、旅行などで交流を深めることができ良い友達を作ることができた。
- 自分の時間を自由に管理しつつ、学業に取り組める点は非常に良い制度だと思う。
- 奨学金（航空券・宿泊代）を支給して頂いたのは、当プログラムに参加できる大きなインセンティブとなった。
- 昨年度のCAMPUS Asiaの様子がわかる報告書が存在する大学があり、非常に役に立った。
- サークル活動に入り友人ができた。

生活面：改善点

- 朝から晩まで実験ばかりで他の体験ができなかったのでもう少し柔軟に経験できるようにしてほしい。
- 日本人の学生は留学中の保険代が全額自己負担だったので補助してほしい。
- 奨学金が各国の物価に換算して支払われているが、それだと日本が多く払い中国が少なくてよいので不公平である。各国が学生に支払う生活費の金額は統一して、その中で保険代や歓迎会などの予算に回す仕組みを作ってほしい。
- 留学先では責任の所在が曖昧でたらい回しにあったので、責任者を明確にしてほしい。
- 言語面で苦労することがあった（特に大学外でのコミュニケーションにおいて)。
- 奨学金の面で、改善してほしい点がある。
  ① 支給されるタイミング（留学して２か月経った後に支給して頂いたので、その間の資金面のやりくりに苦労をした。留学前に支給して頂くと、非常にありがたいです)
  ② 支給される額（日本から中国、韓国から日本への留学生は十分な額であるとの認識。但し中国から日本への留学生は、母国との物価の差もあり十分ではないとの認識)

- 日本の学生とのコミュニケーション(彼ら・彼女らは英語を話せるのだが)をよりしたいのだが、その機会を見つけることが難しく孤独感を感じることもある。
- 現地の学生と留学生とで情報の差がありすぎる。
- 聞いていなかった高額のデポジットを払わされる場合があった。
- 学生寮の価格が留学生用は高い。
- 飛行機代が出ないことがある。
- 英語で書かれた教科書は高く負担が大きい。
- 留学先国ではシャワーのお湯が出ないことがある。
- 留学先国では停電が頻繁に起こる。そのため、研究室ごとに発電機があるほどである。
- 留学先国では6階建ての寮であったが、エレベータが無く大変だった。
- 留学先大学でサポートしてくれる学生の質が悪い場合がある。不真面目な人や業務的な付き合いしかしてくれない人にあたることがある。そのため、大学側は留学生の面倒をきちんと見られる人をチューターに採用すべきである。

その他の意見

- 就職活動について、
  1. 就活への影響を考慮して留学を諦める人も多い。
  2. 留学先国でインターンをすることもできた。
  3. 留学先国で留学生用の就職合同説明会があった。
  4. キャンパス・アジアオフィスから企業に提出する用の推薦状を書いてもらった大学もあった。

- また、キャンパス・アジアの制度そのものについて
  1. プログラムがいくつかありわかりにくい。
  2. このプログラムの周知をもっとすべき。
  3. 日本の大学間でのCAMPUS Asia学生同士の講習を増やしてほしい。

提案

- 大学関係者、政府関係者(文部科学省etc)、メディア、教授、各企業を招いたうえで、日中韓の学生を一堂に集めた全国のCAMPUS Asia総会を開催し、CAMPUS Asiaの知名度の向上と、学生のモチベーション向上を目指したい。
- 一般学生向けにCAMPUS Asiaの授業を履修できるようにし、認定証を授与するコースを作る。
- 複数の大学合同で日中韓から教授を招く公開授業や、シンポジウムなど開催したい
- 大学のCAMPUS Asiaごとの交流以外に、日中韓のすべてのCAMPUS Asiaの学生をつなぐ全国的・国際的なfacebook pageを作成する(作成済み、今後周知に力を入れる)
- 各学校に、CAMPUS Asia学生用のチャットルームを作ることで、学生間の国を超えた交流を促進し、語学力向上や相互理解に繋げる。

以上

「キャンパス・アジア」モニタリング学生部会ワークショップ

（平成２５年１２月１１日　於：東京・学術総合センター）

参加学生リスト

チェ　ビョンユン（CHOI, Byungyoon）	東京工業大学像情報工学研究所（※韓国科学技術院から留学中）
丁　　姿（DING, Zi）	政策研究大学院大学（※中国・清華大学から留学中）
藤彌　　葵実（FUJIYA, Ami）	岡山大学法学部
後藤　　優美子（GOTO, Yumiko）	岡山大学経済学部
半澤　　雄太（HANZAWA, Yuta）	九州大学総合理工学府
稲川　　雄一郎（INAGAWA, Yuichiro）	東北大学理学研究科
伊藤　　光理（ITO, Hikari）	名古屋大学法学部
キム　ジェキュン（KIM, Jae Kyung）	名古屋大学理学部（※韓国・ソウル大学校から留学中）
イ　　ヘミン（LEE, Haemin）	名古屋大学法学部（※韓国・成均館大学校から留学中）
長川　　美里（NAGAKAWA, Misato）	東京大学公共政策大学院
中田　　佳珠美（NAKATA, Kazumi）	神戸大学国際協力研究科
パク　コッソンイ（PARK, KkogSongi）	東京大学公共政策大学院（※韓国・ソウル大学校から留学中）
坂　　一博（SAKA, Kazuhiro）	一橋大学国際企業戦略研究科
清水　　太一（SHIMIZU, Taichi）	東北大学工学研究科
杉浦　　悠太（SUGIURA, Yuta）	東京工業大学理工学研究科
高木　　大地（TAKAGI, Daichi）	九州大学総合理工学府
武川　　基（TAKEKAWA, Motoi）	早稲田大学アジア太平洋研究科
八間川　　結子（YAMAKAWA, Yuiko）	神戸大学国際協力研究科
赵　　韵（ZHAO, Yun）	名古屋大学工学研究科（※中国・南京大学から留学中）

※アルファベット順

名古屋大学　伊藤 光理
東京大学大学院　長川 美里

1

本日のプレゼン

- CAMPUS Asia概要に関してのフィードバック

① 勉強面
② 生活面
③ その他

- CAMPUS Asiaモニタリング委員会への提案
- 終わりに：「CAMPUS Asiaに参加して」

2

学習面

良かった点	改善点
• 専門外のことも学べる • 多様性・異文化交流 • 雰囲気がよい • 自分のペースで勉強できる • 現地語の勉強ができる	• 事前研修 • 授業選択 • 単位互換 • 成績評価 • インターンシップ • 学習のサポート体制 • 学期制が異なる • 研究室の情報が不足 • 連絡のやりとり • 学生との交流の機会 • 指導教員間のネットワーク

3

生活面

良かった点	改善点
• 母国を客観的にみることができる • 交友関係 • 自由な時間が多い • 奨学金などの金銭的補助	• 保険 • 奨学金（タイミング、額） • 教科書代 • 全般的なサポート • 言語面での苦労 • 寮費・施設 • 現地学生との交流の機会

4

その他

- 就職活動について
  - 就活への影響
  - インターンシップの機会
  - 留学生用の就職合同説明会
- Campus Asia制度そのものについて
  - プログラムがいくつかあってわかりにくい
  - プログラムの周知
  - **学生間の交流**

5

学生からの提案

6

CAMPUS Asia 学生総会の開催

CAMPUS Asiaの知名度向上、そして国と学校を超えた学生間の交流を促進する。

参加者	内容
CAMPUS Asia学生、 学校関係者、教授、企業、メディア、政治関係者	基調講演 シンポジウム 意見交換会 懇親会 etc…

7

CAMPUS Asia認定証発行

CAMPUS Asia外の学生が一定の基準で
CAMPUS Asiaの授業を履修、認定証を発行

シンポジウム開催

複数の大学合同で教授を招いての公開授業、
シンポジウムの開催

8

交流のプラットフォーム設立

メンバーシップ74名
CAMPUS Asiaの**つながりを一本化**し、
各国と各世代を**繋ぐ**。

9

恋するフォーチュンクッキー

社会的現象の音楽ビデオを使用し、
CAMPUSAsiaの**認知度向上**を目指すとともに
社会に向けて**メッセージを発信**する。

＊現在他大学と交渉中

10

名古屋大学

CAMPUS Asiaに参加して

東京大学 公共政策大学院
CAMPUS Asia プログラム

11

12

13

Thank you!

14

大学評価・学位授与機構
National Institution for Academic Degrees and University Evaluation

「キャンパス・アジア」モニタリング学生部会ワークショップ

プ ロ グ ラ ム

平成２５年１２月１１日（水）１１：３０～１６：００
於：大学評価・学位授与機構　竹橋オフィス１１１２会議室

テーマ

「キャンパス・アジア」プログラムの更なる深化にむけて

深化した「キャンパス・アジア」プログラムづくりと、**プログラムを学生にとってより一層有意義で魅力的なものとするため**、学生部会ワークショップを開催し、**学生の意見をまとめあげます**。

ワークショップでは、「キャンパス・アジア」モニタリング基準から学生と関わりの深いトピックについて議論し、プログラムに望まれることがらについて、学生間で意見交換する場とします。

ワークショップでまとめられた意見は、「キャンパス・アジア」プログラムのさらなる発展に向けた学生からの提言として、「キャンパス・アジア」モニタリング委員会※へ報告します。この提言は、今後の検討に活用します。

※補足：　ワークショップに参加した学生の代表者には、「キャンパス・アジア」モニタリング委員会（第２回）（平成２６年１月１４日開催予定　於：東京）にて、本ワークショップの報告を行っていただく予定としています。

○キャンパス・アジア」モニタリング基準について

「キャンパス・アジア」におけるモニタリングは、日中韓三国のトライアングル交流プログラム（１０の採択プログラム）を対象に、教育の質の観点から、優良事例を抽出していくことを目的とするものです。

モニタリングは、７つの基準で構成され、各基準には、「優れた取組を抽出する視点の例」および「段階判定の尺度と説明」を設けています。

- 基準１：　教育プログラムの目的
- 基準２：　教育の実施
  - 基準２－１：　実施体制
  - 基準２－２：　教育内容・方法
  - 基準２－３：　学習・生活支援
  - 基準２－４：　単位互換・成績評価
- 基準３：　学習成果
- 基準４：　内部質保証システム

大学評価・学位授与機構
National Institution for Academic Degrees and University Evaluation

プログラム：

時　間	内　容
11:30	集合（大学評価・学位授与機構　竹橋オフィス１１１２会議室）
11:40-12:00 （２０分）	**「モニタリングって何？」** *（進行・説明：大学評価・学位授与機構）* • 「キャンパス・アジア」モニタリングにおける学生部会の役割、ワークショップの趣旨・目的の説明 • グループディスカッションのトピック（モニタリング基準から学生と関わりの深いトピック）の説明 • 本日のスケジュールの説明
12:00-12:30 （３０分）	**アイスブレーキングセッション** *（進行・ファシリテーター：武川　基（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 大学院生））* • アイスブレーキング（学生の自己紹介、ゲーム） • グループリーダー、グループ記録係、グループごとの発表者の選出 **グループリーダー**：**「グループワーク」の進行**および**「コンセンサス・セッション」における共同議長**を務めます。また、ワークショップ後に、モニタリング委員会での報告に向けて、他の共同議長と連携して資料作成をおこないます。 **グループ記録係**：グループワークでの話し合いの内容を**記録**する役割を務めます。 **発表者**：**「コンセンサス・セッション」**において、グループの話し合いの内容を**発表**する役割を務めます。 ※はじめの進行は大学評価・学位授与機構が行い、リーダー等の決定後、これ以降の進行をグループリーダーが行います（適宜、機構がサポートします）。 ※会場には簡単な昼食を準備しております。11:40～12:40 の時間帯は、参加者は昼食をとりながら、セッションにご参加ください。
12:30-12:40	休憩
12:40-14:20 （８５分） （１５分）	**グループワーク：「キャンパス・アジア」プログラムの深化に向けて** *（各グループワークの進行：グループリーダー（学生共同議長））* － グループディスカッション － グループごとの記録まとめ

＜グループワークの進め方＞

- グループワークでは、**「キャンパス・アジア」のプログラムをより有意義で魅力的なものとするため、どういった工夫が望まれるか**、ディスカッションを通じてグループの意見をまとめます。
- グループワークの進め方として、「大学での学習・研究活動」、「生活面」ごとにキーワードを記したトピックカード（日本語・英語で準備）に基づき、良かったところや課題の両方の視点から、自由に話し合います。記録係は、話し合いで出た内容を適宜メモします。

●トピックカード①「大学での学習・研究活動における経験・期待」

ディスカッションのためのキーワード

＜学習・研究面のこと＞

- カリキュラムの内容
- 事前学習
- 授業内容・学習方法（研究活動含む）
- 学習支援、メンター
- 研究・学習環境
- 成績評価
- 単位認定・互換
- 学習・研究を通して身についたこと　など

●トピックカード②「生活面での経験・期待」

ディスカッションのためのキーワード

＜生活面のこと＞

- 学生寮
- 奨学金
- 言語面の支援
- 海外での生活に関するオリエンテーション
- サークル活動　など

＜その他、勉強や生活以外のこと＞

- プログラムへの応募
- インターンシップ
- 留学先の先生や職員との交流
- 大学の事務の人とのやりとり
- 友人
- 留学中のモチベーション維持／帰国後のモチベーション維持
- 就職活動
- 価値観の変化
- 当初の期待に合わなかったこと／身につかなかったこと　など

- ディスカッションの後、「大学での学習・研究活動」、「生活面」それぞれについて、グループの記録をまとめます。そのうえで、グループ発表者は、グループリーダーと協力して、「コンセンサス・セッション」での発表内容を整理します。

	＜発表内容＞　どういった工夫をするとキャンパス・アジアのプログラムがより有意義になるか？ －プログラムの優れた点（グッドプラクティス）と課題点（こうあってほしい点）に触れながらグループとしてまとめた意見を発表－ ＜発表方法＞　PowerPoint に箇条書きでまとめたもの、あるいは、ディスカッションの経緯を記録した模造紙やホワイトボードを全体に見せながら、発表します。発表時間は、１グループにつき５分とします。
14:20-14:50 （３０分）	休憩 • コンセンサス・セッションに向けた学生共同議長（グループリーダー）・グループ発表者の打合せ（於：大学評価・学位授与機構竹橋オフィス１１０５会議室）
14:50-15:50 （６０分）	**コンセンサス・セッション** *（進行：グループリーダー（学生共同議長））* **コンセンサス・セッションの内容** １．グループからの発表 • 「大学での学習・研究活動」、「生活」それぞれについての各グループのまとめについて、グループ発表者は、グループリーダーと協力して発表します。（発表時間＝１グループにつき５分） ＜発表内容＞　どういった工夫をするとキャンパス・アジアのプログラムがより有意義になるか？ －プログラムの優れた点（グッドプラクティス）と課題点（こうあってほしい点）に触れながらグループとしてまとめた意見を発表－ ＜発表方法＞　PowerPoint に箇条書きでまとめたもの、あるいは、ディスカッションの経緯を記録した模造紙やホワイトボードを全体に見せながら、発表します。 ２．全体討論（共同議長の進行のもと、グループ間の質疑応答をおこないます。そこから、**「キャンパス・アジア」プログラムについてさらなる工夫が望まれる点を中心に、各グループから発表されたエッセンスをまとめます**） ３．学生意見書（骨子）の採択 ４．モニタリング委員会での報告者の選出 ５．学生共同議長によるワークショップ全体の総括
15:50-16:00	**閉会のことば** • ワークショップに参加しての学生からのコメント • 機構からのコメント
16:00	閉会 ※閉会後に、モニタリング委員会での報告資料作成にむけた打合せを行います。共同議長とモニタリング委員会報告者は、打合せに参加ください。

「キャンパス・アジア」モニタリング学生部会ワークショップ

（平成２５年１２月１１日　於：東京・学術総合センター）

参加学生リスト

（グループ別）

●グループＡ

□	藤彌　葵実（FUJIYA, Ami）	岡山大学法学部
○	伊藤　光理（ITO, Hikari）	名古屋大学法学部
	キム　ジェキュン（KIM, Jae Kyung）	名古屋大学理学部（※韓国・ソウル大学校から留学中）
◎	高木　大地（TAKAGI, Daichi）	九州大学総合理工学府

●グループＢ

□	チェ　ビョンユン（CHOI, Byungyoon）	東京工業大学像情報工学研究所（※韓国科学技術院から留学中）
	丁　姿（DING, Zi）	政策研究大学院大学（※中国・清華大学から留学中）
◎	坂　一博（SAKA, Kazuhiro）	一橋大学国際企業戦略研究科
○	清水　太一（SHIMIZU, Taichi）	東北大学工学研究科
	赵　韵（ZHAO, Yun）	名古屋大学工学研究科

●グループＣ

□	後藤　優美子（GOTO, Yumiko）	岡山大学経済学部
○	イ　ヘミン（LEE, Haemin）	名古屋大学法学部（※韓国・成均館大学校から留学中）
◎	長川　美里（NAGAKAWA, Misato）	東京大学公共政策大学院
	中田　佳珠美（NAKATA, Kazumi）	神戸大学国際協力研究科
	武川　基（TAKEKAWA, Motoi）	早稲田大学アジア太平洋研究科

●グループＤ

◎	半澤　雄太（HANZAWA, Yuta）	九州大学総合理工学府
□	稲川　雄一郎（INAGAWA, Yuichiro）	東北大学理学研究科
	パク　コッソンイ（PARK, KkogSongi）	東京大学公共政策大学院（※韓国・ソウル大学校から留学中）
○	杉浦　悠太（SUGIURA, Yuta）	東京工業大学理工学研究科
	八間川　結子（YAMAKAWA, Yuiko）	神戸大学国際協力研究科

◎　：　グループリーダー
○　：　発表者
□　：　グループ記録係
下線：「キャンパス・アジア」モニタリング委員会（第２回：平成２６年１月１４日開催）におけるキャンパス・アジア提言書の報告者
※アルファベット順

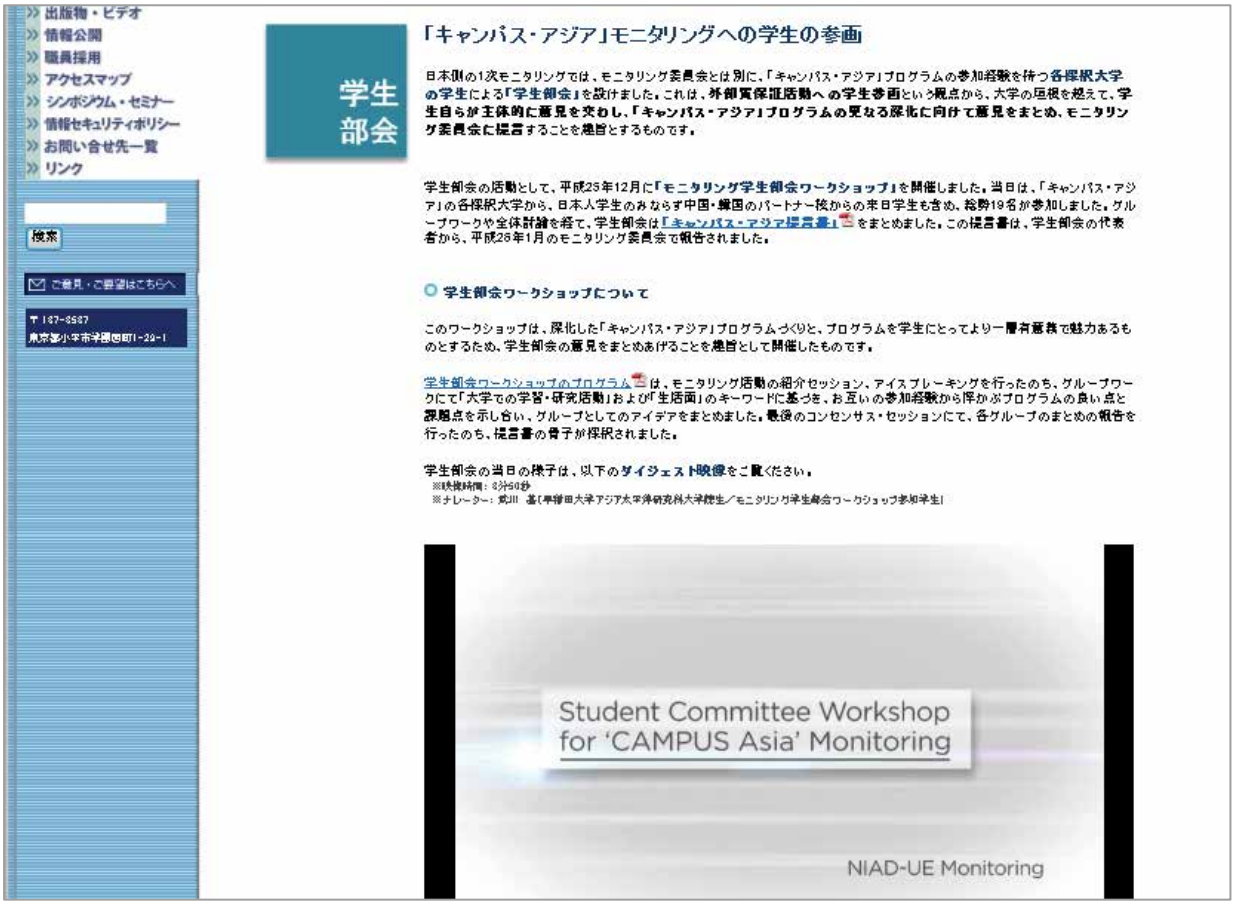
—モニタリング学生部会ワークショップの記録映像について—

平成２５年１２月１１日に開催された「キャンパス・アジア」モニタリング学生部会ワークショップでは、当日の様子を撮影し、ダイジェストの記録映像を制作しました。

記録映像は、モニタリング委員会（第２回）にて、学生部会の代表者による「キャンパス・アジア提言書」の報告とともに上映されました。

なお、この記録映像は、大学評価・学位授与機構ウェブサイト上で公開しています。

モニタリング学生部会ワークショップ記録映像　掲載Ｗｅｂページ
http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/jckcouncil/campusasia_monitoring.html



○映 像 時 間：　８分５０秒
○ナレーター：　武川　　基（早稲田大学アジア太平洋研究科大学院生／モニタリング学生部会ワークショップ参加学生）